

5月 パアバちゃんの子育て考 NO.2



吉田緑こども園

理事長 長谷川智子



小月から木屋川を上って来る道の両側の山の木々が萌えたっています。秋のもえたつとは全く違って若々しい色とりどりの山の景色に勢いを感じます。

園でも進級したお子様、入園してきたお子様がそれぞれに新しい集団の中で自分らしく生きていく術^{すべ}を見つけようとしています。

はじめてのお子さんに「おりこうネ、がんばっているネ」と声を掛けました。涙を流しながら「ウン、ウン」…とうなずいていました。今は私の顔を見ると「ガンバッテル！オリコウ！」と自分から涙目をしながら言ってきました。

子どもなりの“がんばろう”“淋しさに負けないぞ”という意気込みを感じます。バアバの方が泣いてしまいそうです。

この子ども達が色々な人と出会い、いろいろな物と出会い心も体も成長するのですネ。

私たちがそのよい人との出会いを作らなければならないし、物との出会いのための用具・環境をつくり出さないとはいけません。職員共々毎日が勉強だと思っています。

バアバの小さい頃は、今のような立派な玩具はありません。春になると畑の仕事をやる祖母と母を見ながらレンゲをつんで首飾りを作ったりシロツメクサの指輪を作って妹にあげたり。又、小川のメダカを見るのも楽しみでした。小魚を見るとわからない名前をやっと買ってもらった百科事典で調べて、えらっそうにバアちゃんに教えたり。(本当はバアちゃんはとっくの昔に知っていたでしょうに)ほう、ようみつけたネとほめられて、末は博士か大臣かなどという言葉聞いて喜んだりしていました。

博士や大臣でなくていいのです。その人なりの生き方を見つけられるよう見守りたいものです。

青空高く泳いでいる鯉のほりのように嬉しそうに楽しそうに ゆうゆうとゆっくりゆっくり 風まかせに！！ 子どもも自由がほしいのかも。

よいこのあんぜんニュースより

道を渡る時の約束は



入園、進級から1カ月がたちました。新しい生活に慣れてくる頃で、戸外で過ごすのが気持ちの良い季節になってきました。園や家庭では、遠足や公園での遊びなどで外へ出る機会が増えてきます。安全な道路の歩き方、渡り方をしっかりと知らせ、安全に道路を歩けるようにしていきましょう。

まずはしっかりと安全確認

子どもの交通事故の多くは、道路を横断中、そして自宅の近くで起きています。日常的に子どもと一緒に自宅の周りの道路を歩く機会をつくり、道路の安全な横断の仕方を教えていくことがとても大切です。

子どもと手をつないで目を離さない

先に歩いていた保護者を追いかけて道路を渡ろうとした子どもが事故に遭ってしまったという事例がありました。子どもは興味をひかれるものを見つけると、衝動的に動いてしまう特性があります。子どもの事故に飛び出しが多いのも、その特性のためです。子どもの特性を理解して、事故に遭う事のないように手立てを考えていくことも必要です。飛び出し事故を防ぐためにも、道路を歩く時、道路を渡る時には必ず子どもと手をつなぎましょう。

しんごうのない おうだんぼどうを わたるとき

- ① みぎをみる
- ② ひだいをみる
- ③ みぎをしっかりとしかめる
- ④ てをあげて わたる